

名古屋上下水道総合サービス (NAWS、宗本憲英社長)は10月26日からの3日間、名古屋市上下水道局技術教育センターで、中部圏の自治体若手職員を対象とした技術技能研修を開催。下水道管路施設の計画・設計や維持管理、排水設備等をテーマに、座学・実技研修を企画した。管路施設の維持管理では、改正下水道法を踏まえつつ管理計画策定の要となる技術基準や新技術をレクチャーし、人材育成・技術継承に取り組んだ。

官民連携で人材育成

NAWSでは、自治体OBを中心とした熟練の講師陣をプールしており、自治体で顕在化する技術者不足の解消に向け、技術研修による人材育成を事業の柱の一つとしている。今年度から日本水道協会中部地方支部および中部地方下水道協会が実施している自治体職員向けの研修業務を受託し、上下水道の設備、管路の幅広いテーマで技術技能研修を企画運営している。今回は、主に業務経験が2、3年以内の自治体職員を対象に下水道一般の基礎技術の研修講座を開設。研修は「下水道管路施設の計画・設計」「排水設備概論」「水質の基礎と水質管理」など下水道全般を対象とし、浜松市、豊橋市、松本市、桑名市、長岡市等の若手職員約20人が参加。NAWSの宗本社長は「下



マンホール内酸素濃度の測定作業を実体験



人力式の空洞探査装置

中部圏若手職員に技術研修

水道の技術分野は幅広い。研修で実際に見て、触れて、下水道を理解してもらおう機会を提供できたことは意義深い。われわれが培った知見ノウハウを、中部圏の技術継承や人材育成に役立てていきたい」と語った。

2日目のカリキュラムでは、「下水道管路の維持管理」を設け、管路施設の点検・調査・清掃および安全対策等に



注目を集めた空洞探査車

関する基礎知識から、昨年施行の改正下水道法における管路管理の要点等について、座学と実技研修を通じ理解を促した。実技研修は、日本下水道管路管理業協会中部支部愛知県支部の協力で実施した。実技会場の同センター敷地内は、実際の業務環境を想定し、実管路およびマンホール等が布設されている好環境。愛知県支部会員らが▽本管調査(TVカメラ車、管口カメラ)▽取付管削孔▽路面下空洞調査▽酸欠対策(硫化水素・酸素濃度測定、管内送風機器)▽高圧洗浄——等の最新技術を用いて、管路管理に関する一連の業務を披露した。

管路協会愛知県支部の本多行夫部会長は「下水道法改正を受け、維持管理も事業の中心を担っていくが、実際の現場でどのような技術が使われているか、肌で感じてもらいたい」と語った。